

田川地区 図書委員研修会 に参加して

11月5日（金）鶴岡中央高校学習センターにて、田川地区図書委員研修会が開催され、本校代表として、2名が参加しました。

2年ぶりの今回は、アイスブレイクのバースデイラインから始まりました。ジェスチャーだけで、お互いの誕生日順に並ぶことができたから、初対面の緊張感もほぐれ一体感が生まれました。次に、各校のコロナ対策についての発表とコロナ関連本の紹介がなされ、最後は「シトラスリボン」作りをしました。



落ち着いて発表できました。中央高校の図書委員さんに聞きながら…。



シトラスリボンの3つの輪は、「学校（職場）」「家庭」「地域」。コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛の有志がつくったプロジェクト。

めざせ！多読賞

12月までに60冊読んだ人には
賞状と図書カードが贈呈されます。

司書の diary から

11月23日（火）「地域を変える・社会を変える「リーダーシップ」」というテーマについて受講しました（ライブ配信）。4人の先生方のお話から、人々の気持ちに寄り添う共感が大切と思いました。「失敗のない人生は失敗だ」という言葉も印象に残りました。

「朝の読書」感想ピックアップ その2

『神戸 震災をこえてきた街ガイド』島田誠ほか著
大震災から復興へと進み伝えようとしている人に対して学ぶための本。神戸の有名な所、街の様子など色々知ることができた。（2B 女子）

『アインシュタイン 16歳の夢』戸田盛和著
科学と人間生活（授業）でやったことも出てきて楽しかった。相対性理論は難しかったけど、いつか理解できるようになりたい。（2B 女子）

『滅びの前のシャングリラ』凧良ゆう著
「江那友樹、十七歳、クラスメートを殺した」で始まる衝撃の冒頭。学校、家族、友達と広い視野から読むことができた。（2B 女子）

『100年の木の下で』杉本りえ、佐竹美保著
人の心情がものすごく細かく描かれていて、表紙の栗の木と冒頭のお地蔵様が大切な力ギとなっていくのかなと思った。（2B 女子）

《注意》 「朝読書」の本は教室から持ち出さないでください。

New Books



☆は、リクエスト本。ほしい本があれば図書館まで

<p>『何のために「学ぶ」のか』</p>  <p>大事なのは、正解のない問いに直面したときに、考え続けるための知恵。変化の激しい時代を生きる若い人たちへの心に響くメッセージ。</p> <p>桐光学園 筑摩書房</p>	<p>『AIの時代を生きる』</p>  <p>人間とAIの未来はどうあるべきなのか。両者がより生きる社会のつくり方等を、「創造力」と「共感力」をキーワードに語る。</p> <p>美馬のゆり 岩波書店</p>	<p>『植物はなぜ動かないのか』</p>  <p>弱そうに見えるたくさんの動植物たちが、優れた戦略を駆使して自然を謳歌している。植物たちの豊かな生き方に楽しく学ぼう。</p> <p>稲垣栄洋 筑摩書房</p>
<p>☆『マチネの終わりに』</p>  <p>天才ギタリストと通信社記者の二人。出会った瞬間から強く惹かれ合うが、一緒になることは許されない…。映画化もされている。</p> <p>平野啓一郎 毎日新聞出版</p>	<p>☆『思い、思われ、ふり、ふられ』</p>  <p>性格も恋愛観もまったく違う4人の高校生。彼らの友情と交錯する恋心をみずみずしく描く青春群像劇。</p> <p>咲坂伊緒 集英社</p>	<p>☆『夜が明ける』</p>  <p>思春期から33歳になるまでの男同士の友情と成長、そして変わりゆく日々を生きる奇跡。まだ光は見えないが、夜明けを求めて歩き出す。</p> <p>西加奈子 新潮社</p>
<p>☆『私が見た未来 完全版』</p>  <p>1999年に刊行され、東日本大震災を予言していた漫画として話題に。本作は、新たな予知夢を加え解説した完全版。</p> <p>たつき諒 飛鳥新社</p>	<p>『星を掬う』</p>  <p>すれ違う母と娘。小学1年の夏休み、母と二人で旅をした。その後、娘は母に捨てられ…。再会した時、記憶と全く違う母の姿に。</p> <p>町田そのこ 中央公論新社</p>	<p>『いろいろ』</p>  <p>たおやかでまっすぐなありのままの本音。俳優・歌手として活躍する著者の素顔と胸の内を綴った、初のエッセイ集。</p> <p>上白石萌音 NHK出版</p>

10月の図書貸出状況

10月の図書貸出総数は全校で87冊でした。内訳は、生徒への貸出数が61冊、教職員への貸出数が26冊です。

